

🚀 ～ 1 9 6 2 ～ 🚀

ドリーム

HIDDEN FIGURES

映画で考える 「人種と性別の壁を越える」

対象：小学校高学年以上

名前

年 組

1 「隠れた人たち」はだれ？

1960年代のアメリカ。宇宙^{うちゅう}へ人を送る計画の裏で、ロケットの軌道^{きどう}を計算^{けいさん}していたのは、**黒人^{こくじん}の女性たち**でした。けれど彼女たちは、トイレもコーヒーポットも別にされる職場で働いていました。

🚀 **壁^{かべ}の越え方は、一つじゃない。**

🔑 原題の意味

原題は“Hidden Figures”。「隠れた数字」と「隠れた人たち」という2つの意味がかけられています。大きな成功の陰^{なまえ}には、名前^{なまえ}が知られないまま支えた人たちがいました。

※実話^{じつわ}をもとにした映画ですが、一部に脚色^{えいが}があります。

2 3人の「壁^{かべ}の越え方」

■ キャサリン

理不尽なことを上司^{うっさ}に訴え^{けいさん}、計算^{けいさん}の力で信頼を勝ちとった。

■ ドロシー

コンピュータの時代を見こして、プログラミングを学んだ。

■ メアリー

白人^{はくじん}しか入れない学校で学ぶため、裁判所^{さいばんしょ}に訴え^{うった}た。

■ 共通すること

実力を示し、あきらめず、仲間とともに進んだ。

3 映画『ドリーム』とは

あらすじ（実話がもと）

NASAの研究所で働く、数学の天才キャサリン、管理職の仕事しながら肩書きのないドロシー、技術者をめざすメアリー。3人は黒人女性であるために、さまざまな壁にぶつかりますが、それぞれの方法で道を切りひらいていきます。

1962年のできごと

ジョン・グレンが、アメリカ人として初めて地球を回る飛行に成功しました。その軌道の計算を確かめたのが、キャサリン・ジョンソンです。

見るときの心がまえ

3人がどんな「壁」にぶつかり、どうやって越えたかに注目しながら見よう。

4 壁の越え方を考えるワーク

 えいが 映画を見て（またはあらすじから）、考えて書こう

① 3人の前には、どんな「壁」があった？

② 3人の壁の越え方で、いちばん心に残ったのはだれ？ なぜ？

③ 今の社会や身の回りに、「見えない壁」はある？

④ 名前は知られていないけれど、社会を支えている人はだれ？

5 ふりかえり

差別は、_____によっても支えられていたと分かりました。これから、壁にぶつかったときは、_____をしたいと思います。

 「壁の越え方は、一つじゃない。」

先生・保護者へ：『ドリーム』は日本で映倫Gです。人種差別の場面がありますが、暴力的な描写はほとんどありません。本資料は小学校高学年以上を想定しています。アメリカの人種隔離の歴史を簡単に補い、特定の人種や国への偏見につながらないよう配慮してください。

© 2026 FilmEdu AI / この教材はAIを活用して作成しています。内容に誤りを含む場合があります。解説文はすべてオリジナルで、ポスター・場面写真は使用していません。作品の著作権は各権利者に帰属します。授業での上映には適切な権利処理が必要になる場合があります。